

平成 28 年度 第 1 回田原市総合教育会議 議事録

1 日時

平成 28 年 7 月 13 日（水） 午前 10 時 30 分～午前 11 時 33 分

2 場所

田原市役所 南庁舎 4 階 政策会議室

3 協議事項

- (1) 伊良湖岬中学校及び泉中学校の学校再編の状況について
- (2) 学校教育の諸課題について
- (3) その他
 - ・田原市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

4 出席者

市 長		山下 政良
教育委員会 教育長		花井 隆
教育委員会 教育長職務代理		横田 威
教育委員会 委員		金原 真人
教育委員会 委員		山本 明子
教育委員会 委員		土井 真紀江

5 欠席者

なし

6 会議構成員以外の出席者及び事務局

企 画 部 長	中村 匡
教 育 部 長	大根 義久
企画部企画課長	大羽 浩和
教育部教育総務課長	三竹 雅雄
企画部企画課主幹	鈴木 真喜生
教育部教育総務課課長補佐兼係長	伊藤 英洋
教育部教育総務課主任	宮嶋 綾子

7 傍聴人

1 名

8 協議の経過

(企画部長)

定刻となりましたので、ただいまから平成 28 年度第 1 回田原市総合教育会議を始めさせていただきます。

会議の前に、田原市総合教育会議設置要綱の改正について報告させていただきます。

4 月の市の機構改革によりまして、政策推進部が企画部となりました。事務局は、今まで、政策推進部政策推進課となっておりましたが、設置要綱第 8 条に規定する事務局を、企画部企画課に改正させていただきましたので、ご報告させていただきます。

なお、事務局の職員につきましては、総合教育会議の名簿をご覧いただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。それでは始めに山下市長からご挨拶を申し上げます。

(市長)

皆さんこんにちは。

まだ夏の手前で梅雨ですけれども、私が毎日気をつけておりますのは、宇連ダムの水の量です。こちらの方で雨が降っていても、なかなか宇連ダムに水が貯まらないということで、今日は70%をちょっと切っているようです。通常で言いますと、100%ないと夏がなかなか越せないかと心配しているところです。

さて、先日、青少年問題協議会、そして、子ども・若者支援地域協議会が開かれました。これでいよいよ夏に入って、子どもたちの非行防止、そして犯罪に巻き込まれることがないよう、地域の目がこれから必要になってくる、こういう時期になりました。交通安全もそうですけれども、子どもたちには健全に育てていただきたい、こういう気持ちで皆さんと共に進んでいきたいと思っています。夏になりますと、犯罪も、事故も増えてまいりますので、是非、皆さんと一緒に子どもたちを守っていききたいと思っております。

今日は、学校の統廃合問題等についてご協議いただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

(企画部長)

それでは会議に入りますが、会議の進行は、本会議の議長であります市長にお願いします。

(市長)

それでは、協議事項に入りたいと思っております。協議事項(1)伊良湖岬中学校及び泉中学校の学校再編の状況について、事務局から説明をお願いします。

(教育総務課長から協議事項(1)について説明)

(市長)

事務局から学校再編についての説明がありましたけれども、これに対するご意見、ご質問がありましたらお願いしたいと思います。

(横田委員)

27年度から伊良湖岬中学校統合検討委員会が行われてきて、27年度における意見、28年度の5月の会議での意見、それから、この前の学校見学会での意見、この流れを見ていくと、だいた親の意見が変わってきている気がします。ただ、文字だけで追っていくとなかなか読み取れないので、会議に出ていた時の様子について、どのような感じを受けたか教えてくださいませんか。

(教育総務課長)

25、26年度には、和地、堀切、伊良湖の3小学校統合同、岬中学校の統合を議論し、まずは、3小学校の統合を進めてきました。その時、中学校の話をしますと、まずはどこに行くのか、まとまって行くのかということで、それぞれ、伊良湖は福江へ、和地は赤羽根の方が強く、堀切は両方が混在している状況が続いていました。そして、小学校が統合した後、27年度、中学校統合の検討を行った最初の頃は、まだその流れがあったということと、どうしても、小学6年生で統合した子が、30年度に中学3年生でまた統合ということに反対される方は何人かいらっしゃいました。一方で、予定された32年度に岬小学校を建設して移転することに賛成する方も根強くいらっしゃいました。

その後、会を重ねる中で、岬小学校での生活に慣れてきたこともあると思いますが、やはり岬地域と一緒に統合したいという意見が多くなってきたように思います。

また、小学校のPTAが行ったアンケート結果では、福江中学校への統合希望が多いですが、30年度の統合は遅らせてほしいといった意見が見られるようになりました。

(横田委員)

結局、岬中学校の保護者の方々は2つ問題を抱えていると思います。

1つは、早く予定した時期に新しい小学校を作ってほしいと。あとは、どこの中学校に行くのかと。この2つで、ある程度、話がまとまってきたような方向を感じます。以前は、旧小学校区ごとでバラバラの意見だったのが、だんだん福江中学校寄りに変わってきたような気がします。いかがですか。

(教育総務課長)

伊良湖岬小学校の保護者と4、5、6年生に行った岬中学校統合に関するアンケートでは、統合先は、「わからない」を除いて、福江中学校が71%、赤羽根中学校が29%です。統合時期につきましても、「わからない」を除いて、予定どおり30年4月が38%、遅らせるのが良いが62%です。

コメントの中でも岬地域と一緒に動きたいという意見はありましたが、PTAの会長さんも同じことをおっしゃっていました。

(市長)

よろしいですか。他にご意見はありますか。

(金原委員)

アンケートの結果が意外な感じがしました。以前なら部落によって、いろいろ意見がありましたが、今回、7割方が福江中学校へ行くという意見は、私個人としては、中学校単位で動くのが理想という感じを受けました。泉中学校も、この岬中学校の結果を気にして、考えていくのではないかと思います。

(市長)

その他、何かありますか。ご意見でも、ご質問でも。

(横田委員)

泉中学校の方は、最初は統合を考えていないという話がありましたが、赤羽根中学校寄りに動いているような気がします。親が子どものことを考えたり、検討委員会の中でも雰囲気が変わっていったのでしょうか。

(教育総務課長)

泉中学校におきましても、学校を考える会ですとか、25年度末の校区でのアンケート、親御さんたちとの意見交換会を実施し、27年度には、再編検討委員会を立ち上げ、協議をしております。校区で行ったアンケートでも、保護者の方々の意見でも、赤羽根中学校という意見が多くありました。

再編検討委員会では、その名前のおり、まず、統合を決めるか、決めないかを最初に検討しました。岬は小学校で一度経験していますが、泉は今回初めての統合であり、統合時期については、早くという方、ゆっくりという方、いろいろな思いがあったようです。

(市長)

統合先については、赤羽根中学校という希望が増えてきたということですね。

(横田委員)

会議を重ねるたびに多くなってきたと思います。

(教育長)

私も委員会に参加させていただいている中で、変化ということですが、当初、昨年の1学期あたりですと、教育委員会の案を示して話をしたらどうかという声がありました。私たちとしては、まずは、皆さんの意見を聞く、尊重するというので進めてきた結果、住民の皆さんも、赤羽根だとか、福江だとか、意見を明確に出していただきました。また、地域の意見も、学校が無くなる寂しさもありますが、子ども、保護者の意見を尊重して進めてほしいということで、少しずつ鮮明になってきました。

(市長)

子ども、保護者の意見でだんだん方向性が見えてきたと読み取れます。これで、だいぶ意見も出てきましたので、方向性をまとめていかなければと思います。他によろしいですか。

(山本委員)

PTAのアンケート結果を尊重したいとの意見が多いとのことですが、PTAの方の意見ですか、地域の方の意見でしょうか。

(教育総務課長)

検討委員会の中でそういう意見がありました。

(山本委員)

地域の方も、尊重したいということですか。

(教育総務課長)

はい。

(山本委員)

泉中学校もそうなんですね。

(教育総務課長)

その検討委員会の中で意見がありました。

(市長)

他によろしいですか。ご意見、ご質問もないようですので、次に移りたいと思います。それでは、次に、学校教育の諸課題について事務局から説明をお願いします。

(学校教育課長から協議事項(2)について説明)

(市長)

学校教育の諸課題として、多忙化問題、これはずっと長い間、言われているわけですが、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

(金原委員)

教員の多忙化ですけど、中学教員が多いですが部活の関係ですね。

(学校教育課長)

部活動の時間が長いということが、直接表れています。

(金原委員)

数字が増えることはあっても減ることはないじゃないですか。土日両方とも部活動をやっているのですか。

(横田委員)

原則は、日曜日は無しです。それは校長会で決めています。大会がある2週間ぐらいまではありません。

(学校教育課長)

日曜日はやらないということで、各学校で約束をしています。土曜日はやっても良いということですから、ほとんどの中学校でやっています。

先ほどの、正規に割り振られた時間を越えて学校に在籍した時間ということですが、当然、土曜日に出てきて子どもを指導する時間も含まれるものです。小学校は土日の部活動はありませんので、差が出てきてしまいます。部活動もいろいろ約束をして、やり過ぎにならないように、お互いに学校の中で配慮するようにしております。

(金原委員)

ということは、特定の先生が多いのでしょうか。

(学校教育課長)

部活動はどの職員も担当しておりますので、部活動の時間も多のですが、それ以外にも、学校の中で様々な仕事をしております。なかなか仕事がこなせずに、学校に遅くまで残ってしまうことが中学校で多いのかなと思います。

(山本委員)

100時間を越える先生が中学校で14人いるとのことですが、例えば、5時に終わって、そこから5時間いるということになるのですか。

(学校教育課長)

これは、1ヶ月全部を積算した、正規の勤務時間以外に学校にいた時間です。毎日の時間は正確に把握しておりませんが、土曜日などの部活動の指導で出てきた時間も入っています。

(山本委員)

学校によって差があるのでしょうか。

(学校教育課長)

学校によって差はございます。遅くまでおりがちな学校と、割と早く帰っている学校と、やはり傾向が出ております。それぞれの学校で工夫して改善に取り組んでいますが、なかなか思うようにいかないのが現状です。

(市長)

解決の糸口として、学校の先生から部活がなくなれば、この時間はぐんと減りますか。

(学校教育課長)

もし、部活動を一切やらないとなれば、この時間は減ります。ただ、学校現場の教員としては、部活動は重要な教育的な活動であると考えておりまして、部活動を通して子どもたちを健全に育成するという大きな狙いとして位置付けておりますから、これを全部やめて、別の組織でお願いすることができないものです。大事であることがわかっているからこ

そ、多忙な中で、教員の習性として、一生懸命やっています。ただ、それをそのまま手を打たずにいるということは、私たちの立場としてはいけないものですから、改善できるところを探っていきたいと考えています。

(横田委員)

多忙化については、県でも検討委員会を立ち上げていくということになっています。

現場の先生方の、多忙に対する考え方、意識がどうなのか。もし、検討委員会が立ち上がれば、調査をもっと細かくしていただけるとありがたいです。個々の先生方によって、多忙感が違ってくるので、そこを見極めないと、対策として考えられないのではないかと思います。忙しいのは部活のせいだと言っているような気がするんですが、それだけではなく、やはり真面目な先生は授業の準備をしたいのにその時間がないと思っているかもしれない、また、部活をどれだけやっても忙しいと思っていない先生方もいますので、その辺りの調査をきちっとしていただきたいなど。

そこで、細かいことよりも、全体的な多忙感をなくすため、2つお願いがあります。

1つは、今、どこの学校でも校務主任が環境整備をしていますが、お金のこともありますが、できたら用務員を中学校校区に1人配置していただいて、小学校にも回っていくようにしたらどうか。今の用務員さんは給食の配膳が中心ですが、ペンキを塗ったり、草を取ったり、芝を刈ったり、いろいろなことをやっていただける用務員を配置していただき、先生方が環境整備をしなくても、授業に専念できるとありがたい、というのが一点です。

もう1つは、小学校1、2年生は30人学級でいいんですが、3年生になると1クラスの人数が増えてしまいます。4年生になると部活やクラブなど、いろいろな交わりもできてくるのですが、一番、不登校が出やすいのが小3と中2です。先生方も、2クラスだったのが1クラスになって事務処理が多くなるという多忙感もあると思うので、特別に、小3を30人学級にさせていただけるとありがたいと思います。

(市長)

教育委員会の中で検討してもらいます。貴重な意見をありがとうございます。

その他よろしいですか。

多忙化の問題については、これからも継続的に話し合いをしていかないと、なかなかえらいかと思いますが、解決に向けて進めて行きたいと思います。

他にないようですので、次に(3)に入りたいと思います。田原市まち・ひと・しごと創生総合戦略について、事務局から説明をお願いします。

(人口増企画室長から協議事項(3)について説明)

(市長)

田原市まち・ひと・しごと創生総合戦略について説明がありましたが、これに対して、ご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

(金原委員)

新生児は、この3年間でどのくらい生まれていますか。

(人口増企画室長)

今、手元に資料が2014年までしかありませんが、2012年が541人、2013年が539人、2014年が513人ということでございます。

(金原委員)

ほぼ横ばいということですね。

(人口増企画室長)

そうですね。多少は減っています。

(市長)

転入もありますが、死亡、転出も入れて、全体で見れば、この周辺では人口はほとんど減少です。豊橋も減少しているし。

(企画部長)

豊川は若干増えています。

(市長)

名古屋市周辺は、かなり増えているようです。学校をどんどん作らなければというところもあります。やっぱり都市部に集中しているのですが、そうかと言って、手をこまねいているわけではないんですが。

どうぞ、いいですよ。

(横田委員)

基本方針が4つあって、具体的な内容を見ていくと、ハード的なものではなくソフト的なものばかりなので、これでいいと思います。ただ、本当に田原市の人口を増やすといいことがあるのか、担当の方々はその辺りはどのように考えていますか。

人口が減っていくと良くないと皆さんは言います。6万人くらいで目標値を立てていますが、増やすことでどういうメリットが生まれてくるのかということをお聞きしたいと思えます。

(人口増企画室長)

まず、このまま、何も手を打たずに人口が減少していきますと、2040年には5万人ということになってしまいます。少子高齢化がどんどん進みますと、生産年齢の方たちも減ってきてしまうということで、田原市自体が財政的にはもたなくなってしまう。まずは、生産年齢人口を増やし、高齢者の方々を支え、子どもたちの人口も増やしていくということです。

2014年の日本創成会議では、このままですと、日本の半数の自治体が消滅してしまう可能性があるということも出ていますので、日本国中、何とか人口を保とうという動きになっています。

(市長)

人口は、数字だけに捉われるのではなく、例えば、農業後継者もそうですし、やはり、若い人たちがどんどん出てきて、地元のパワーを付けていくためには、人口が増えていかないと。ただ、急激に増えていきますと支障が出てきますが、減っていくということは、その分だけ街の力は低下していきます。これは将来を見ても低下していきますので、減少に歯止めをかけていかなきゃならない。働き手がなくなる、というのが、最終的には一番困ることでしょうね。

(横田委員)

増やす、増やすというところに力を入れるよりも、基本方針のここをきちっとすることによって、人が増えるのではないかと。増やすことばかり考えていると、基本的なことが忘れられていくような気がします。常日頃やらなければならぬ取組がおろそかにならないよう、取組の姿勢、4ページが一番上に書いてある、これが一番大事だと思っています。

(市長)

そういうことですので、がんばりましょう。

その他、何かありますか。いいですかね。

今日あがっている議題につきましては、これで全部終わったわけですが、その他、何かありますか。

他に無いようです。今日の議題は全て終わりました。以上をもちまして、28年度の第1回の田原市総合教育会議を閉会とさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

(閉会 午前 11 時 33 分)